

火星人の襲撃だ！

逃げ惑ふ群集

實は…戦争劇の放送だった話

【ニウヨークの話】 歐米諸國民は今一様に戦争の幻影に怯えてゐる。戦争恐怖症にかゝつてゐる者さへ少くはない。昨年10月30日夜、H. G. ウェルスの「宇宙戦争」がドラマ化されて放送された時、ラヂオ放送開始以來空前の笑へぬナンセンスが行はれたが、これこそ米國民が如何に戦争に恐れをのゝいてゐるかを示すものだ。同夜20時から21時まで、ワシントン、コロムビア兩放送局は前述のウェルス原作「宇宙戦争」を放送した。

劇は先づホテルのダンス音楽から始まつたが、この時突如天文臺の一博士から火星表面にガスの爆發を認めたといふ報告があり、それからニュージャージー州のプリンストンに火星人が降りて忽ち1500人の住民を殺害したといふことが、普通のニュース放送のやうに行はれた。

この劇の放送を聴取した全米人達の中には、火星人が現實にアメリカへ襲來したかの如き錯覺を抱き、婦人や子供達は火星人の放つ毒ガスをさけるためタオルやハンカチを口にあてがつて續々と戸外に飛び出し、安全な場所を求めて公園などの廣場へ殺到したのである。お祈りをあげてゐた教會では驚きのあまり祈りを中止するところもあつた。肉親や友人に對して早く避難するやう電話で知らせたり騒ぎは次第に大きくなつて行く。やがて警察署や放送局に火星人が本當に襲來してゐるのかとか、どうしたら安全に逃げられるかといつた風な問合せ電話が幾千となくかけられ、警察や放送局を驚かした。

この騒ぎは21時半頃で漸くをさまつたが、持出した家財をうらめし氣に持歸つたり、ビツクリしたために病氣にかゝつた氣の毒な人も可なり出來た。これらの聴取者は何れも新聞のラヂオ面を見なかつたり、當夜アナウンサーの劇放送の事を聞き逃した人達であることはいふまでもない。米國民が如何に戦争の影におびえ、激しい恐怖症にかゝつてゐるといふ事である。

ニウヨーク・タイムズ紙はこの事件を重大視して多くのスペースを割いて報道してゐるが、今後も相當論議を捲起すことであらう。